

平成 25 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

1 微小粒子状物質の動態と発生源寄与の解明

[総合評価とコメント]

- 現在最も関心を集めている環境問題の 1 つである PM2.5 に取り組む課題であり、時宜を得たテーマといえる。

既に 2 年間、地域課題として進めてきたものを H26 年度はプロジェクト課題に格上げすることも、課題の重要性を鑑みた適切な措置と評価できる。

有効な対策を得るためには、多種の発生源のそれぞれがどのような機構でどれだけ寄与しているのかを把握することが必要であるが、本課題ではその発生源寄与に焦点をあてており、妥当な対応といえる。

県内の常時監視体制も H25 年度までに整備されたことから、モニタリングデータ面での充実が期待でき、そこに成分分析データを組み合わせることで、今後多くの新たな知見が得られることが期待できる。

既に共同研究も行われているが、本課題に関する取り組みは他研究機関でも多数行われているので、他機関の研究成果も有効に活用するような取り組みの方向が有効と思われる。
- 社会的な関心も高く、工業地帯や自然の豊かな地域等様々な地域の存在する神奈川県の特徴をうまく活かすと国全体にも寄与できる研究成果が得られると期待。

せっかく多様な地域があるので、主要な点源が近辺にあると考えられる測定点と、そうではない測定点を取り上げて比較するとよりよい解析ができるのではないかと期待する。そうではない測定点でも山間部、臨海部とから代表的な点を取り上げることで発生源の解析につながる成果が得られることを期待する。点源に関しては、風向と気温、電力に関しては火力発電所の発電量データ等と比較することで一定の分析と高濃度日の予測ができるのではないかと期待する。

課題評価票の「計画の妥当性」にも関連するが発生源プロファイルは解析上きわめて重要。このセンターが取り組むことではないと思うが他機関とよく連携し最新の知見を反映できるようにしてほしい。

課題評価票の「進捗状況」、「目標の達成度」については報告において未達の部分があったことを踏まえて 3 とした。
- 神奈川県だけでなく、国としても重要な課題だと認識します。その意味からは、国（国立環境研など）他の研究期間との連携、協力も重要と考えます。

季節変動や日変動と気象等からの解析からの成果は一定程度出始めていると認識します。引き続き、発生源解析など他の解析などサブテーマ間の結果の統合も意識しながら、確度の高い推論ができるように進めていただきたい。

CMB 解析や不明成分の解明では、発生源データをより多くの成分について調べることで手がかりがつかめる可能性があるのではないかと考えます。困難な課題ではありますが、県内の施設を統括するという行政の立場も利用して、引き続き発生源データの整備に努力をお願いしたい。
- 国内外で問題として懸念される PM2.5 について、定期的なモニタリングをすることは重要であり、さらに排出源の推定から、将来的な濃度低減に向けた取り組みとして、評価できる。推定には、一般に確立されているモデルを用いているとのことであるが、PM2.5 対象のデータベースは、近年の国内に対応したものは不十分とのことである。本研究を継続することで、データベースへの基礎的情報を提供することも可能となることから、神奈川県での局所的な成果としてだけでなく、首都圏まで含めた貢献ができるものと予想される。なお、不明成分の検討については、容易でないことが予想され、他機関との連携も含め検討を続けることを求める。

(数値的評価)

★評価者4名

〈評価の内容〉	〈評価項目〉	〈ランク〉				
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5 (4人)	4 (0人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)
	○優先性	5 (3人)	4 (1人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)
計画の立案と実施方法	○研究内容	5 (2人)	4 (2人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)
	○計画の妥当性	5 (2人)	4 (1人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)
研究の進捗状況	○進捗状況	5 (1人)	4 (2人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)
成果の展開と普及	○目標の達成度	5 (0人)	4 (3人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)
	○具体的な成果	5 (0人)	4 (3人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)
	○成果の発展性	5 (3人)	4 (1人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)

※ランクは、5点満点の評価で5 (優) ~ 1 (劣)